

アニメで、“ひこーき公園の未来図”を描いてみよう！～アニメテッドラーニングー気候変動とわたしたちのまち～
ワークシート アニメーションの記録

A チーム 記録：アニメーション・ファシリテーターのいがきけいこ

チーム名	チーム世界
メンバー（担当したパート）	すみっこ（中国） 野崎はるか（ナイアガラの滝） 千田花瑠（ピューロランド） 加藤奈々穂（きらきらの世界）
テーマ	ひこーき公園にある「ひこーき」（飛行機型のジャングルジム）でいろいろな場所を見に行く（旅をする）。
タイトル	AROUND THE WORLD（仮訳 世界中）

アニメーションの設定

だれが（1）	紙コップのわたしたち。
だれが、なにが（2）	ひこーき（公園にあるジャングルジムに似せた、紙の飛行機）。
どこで	中国、ナイアガラの滝、ピューロランド、きらきらの世界（宝石の国）。 ひこーき公園。
いつ	2030年。
セリフがあるかないか	セリフはある。
なにを、どうする（あらすじ）	ひこーき公園のひこーき（遊具）に乗って世界を旅行する？！

ふりかえり

観客の感想や意見	Bチームの人たちの感想 ● 立体的なのがおもしろかった（旅する人たちに紙コップを使うのがいい） ● 宝石の国（きらきらの世界）のクオリティがよかった。細かい！ ● ナイアガラの滝が本当の水のように見えた。表面がぼこぼこしていたり、立体感があった。
チームの話し合い 成功したこと 良かったこと	アニメーション作り 楽しかった！ 紙コップが生きているみたいに動かせたのがよかった。 ひこーきを動かすところがうまくいった！
チームの話し合い 失敗したこと	（コマ撮りしている時に）ひこーきが落ちたりして大変だった。 もう少し工夫する時間がほしかった。
どうしたら 伝えたいことを もっと良く伝えられるか？	また作りたい。

<完成したアニメーション>



<https://youtu.be/zcDbLMRpbeI>

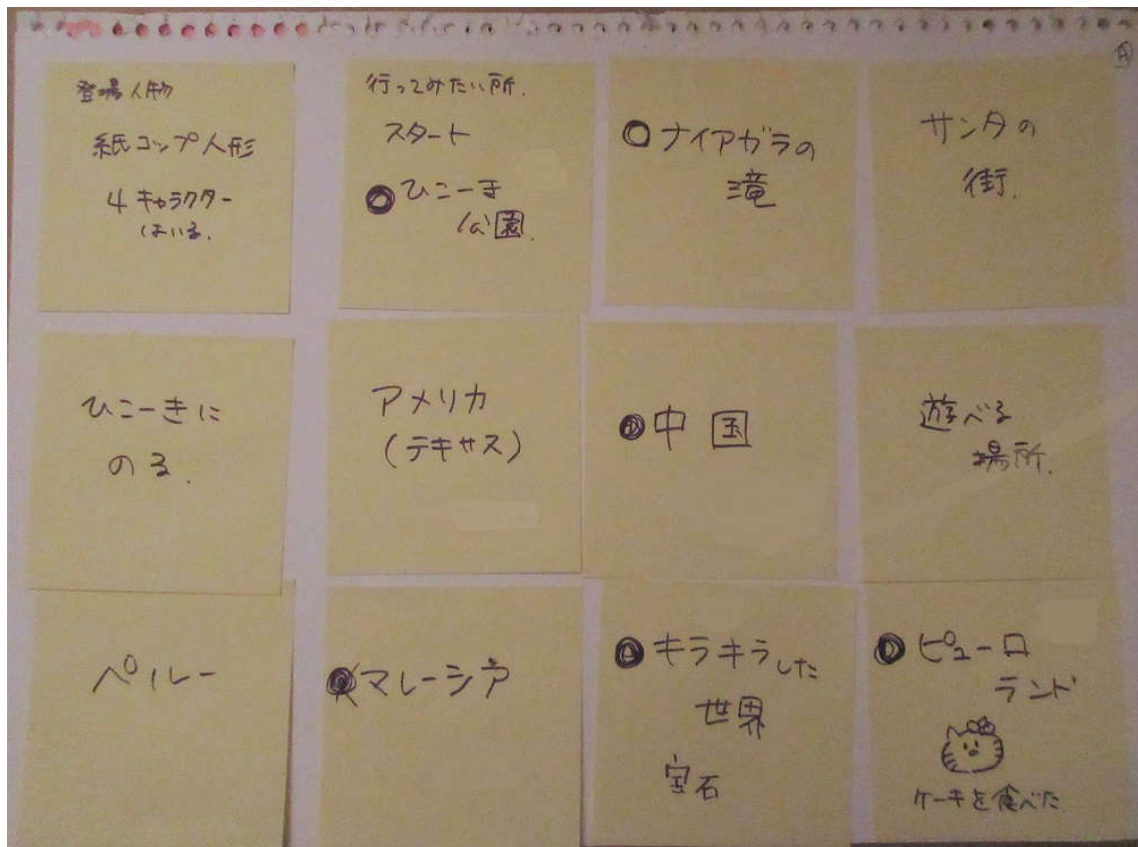
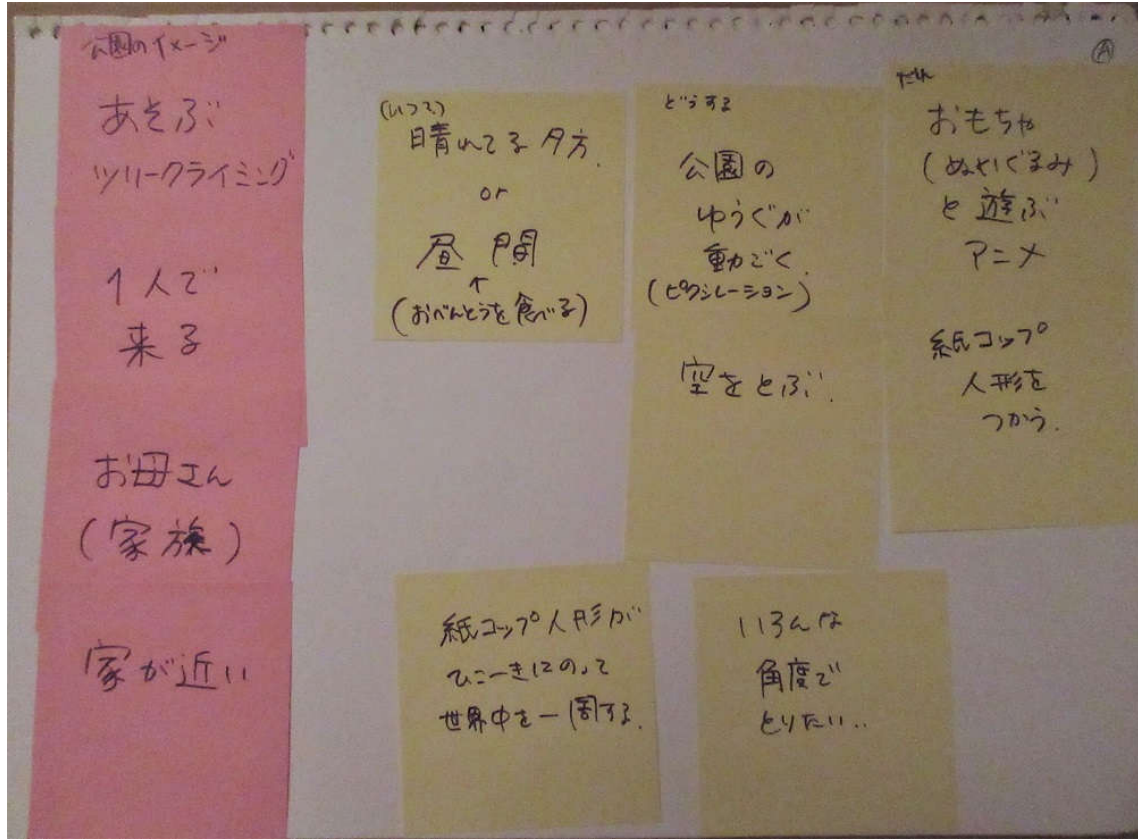
完成日：2020年1月12日

使用した楽曲：なし

作品時間：1分6秒

権利管理：一般社団法人アニメテッドラーニングらぼ

Aチーム プレスト 記録：いがきけいこ (アニメーション・ファシリテーター)



(A)

<お話>

ひこーき公園から
世界へ!!

ひこーきにのって
いろんな世界にどんどこ

ひこーき公園 ←

↓

中国

↓

タイアガラの滝

↓

ヒューランド

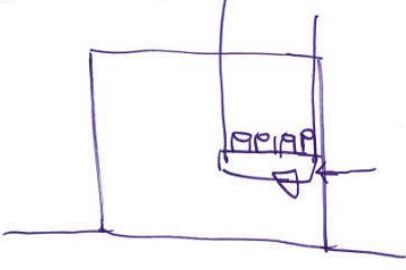
↓

キラキラした世界

<登場人物>

紙コップ人形

ひこーき ← 浮かせる。
(紙コップをつまげる)



ひこーき公園の ひこーきに似せ。

<チームワーク、制作に関するアニメーション・ファシリテーターの所感>

- 各自作業を確認することでしっかり進めることができた。
- どんな風にしたいか? など、なげかけるとしっかりアイデアを伝えてくれる子どもたちだった。
- みんな絵を描くのが好きなようだった。作業が丁寧だった。
- テーマを意識して話し合いを進めたが、「未来図」まで引き出すことが出来なかったが、「ひこーき公園の飛行機（遊具）に乗って紙コップ（自分）たちが旅行をする」というアイデアがとても面白いと思ったので、活かすことにした。

ファシリテーターによる全体の総括

- テーマをもっと的をしぼってもいいのではないかな。未来図なら、10年後、100年後など。
- いろいろな未来図を提案して考えさせても面白いと思います。
- 公園を遺すなどメッセージ性を持たせたいのなら、そのような話し合いも必要です。学びの段階でもっと具体的ななげかけてもいいと思います。

空飛ぶジャングルジムの飛行機

チーム世界はひこーき公園から飛行機で世界旅行へ出るという物語をアニメにすることにした。4人それぞれが高さ 5.5cm のミニ紙コップのキャラクターになり、飛行機に乗り込む。

背景は平面と半平面(ナイアガラの滝)だが、キャラクターが紙コップという立体のため、飛行機も立体にして空を飛ばさなければならなかった。



飛行機の絵を1人が描き、その裏側に厚紙で受け皿を作りキャラクターの紙コップを乗せた。飛行機にガラス棒を2本固定して、参加者がガラス棒を持って少しずつ動かすことで、紙飛行機はアニメの中で空飛ぶジャングルジムとなった。参加者の「空飛ぶジャングルジムの飛行機」の立体的な造形とガラス棒を用いることはファシリテーターのいがきが提案した。

4つの旅行先の背景とは別に、旅行の出発点・終点となる「ひこーき公園」の絵は、公園の写真をもとに別の参加者が描いた(写真中央 飛行機を描く子の横で作画している)。

キャラクターの後ろ姿と工夫の連携

紙コップのキャラクターはひっつき虫(何度でも使えるソフト接着剤)で仮止めすると、ジャングルジムの階段を上るように撮影できた。

参加者4人がそれぞれのキャラクターになって、公園にあるジャングルジムの”飛行機”に乗るシーンでは、3人目の参加者が後ろ向きにハシゴを上るのに”後ろ姿”を描くことを思いつく。4人目も後ろ姿を加えて搭乗させ、工夫を連携させた。



厚紙の受け皿に乗せたキャラクターは落ちやすく、撮影の終盤になると、参加者たちが自発的に協力するようになった。

空飛ぶジャングルジムは参加者の印象に残ったようだ。上映後のふりかえりで子どもたちが自慢げに撮影の様子を話すのが微笑ましかった。

